

テーマ 支店協同活動の強化について

みなさんに講読いただきました「よくわかる！JA講座」は今回が第7回目、最終回となりました。今回のテーマは「支店協同活動」です。

JAは常に地域に根ざした存在で、農家・組合員目線で地域のために事業を展開してきましたが、農村のほとんどが農業で生計を立てていた頃とは違い、現在は農村であってもサラリーマン家庭などの非農家と農家が混住しています。JAに理解があった昭和一代の組合員の世代交代が進み、次世代との関係づくりが課題となっています。特に大規模合併JAにおいて、組合員をはじめ地域住民との結びつきを維持・強化するためには、支店を拠点とする協同活動の取り組みが重要となっています。

今求められる、 未来に向けた支店機能

JAは組合員加入を促進し、女性組合員や准組合員が増加しました。こうした新たな組合員や次世代とのつながりを深めるには、地域やくらしの分野からのアプローチが重要であり、地域の実情を最も把握している支店の役割が重要となっています。

今、支店に求められるのは、未来に向けた新たなJAの組織基盤づくりであり、こうした問題意識に基づいて支店を核とする地域との新たな関係づくりを進めることが、大変重要なことです。

支店協同活動

そのため、支店を拠点とした「支店協同活動」(組合員や地域住民との絆を深めるためにJAが行っている活動)を強化して、組合員のみならず、次世代や地域住民がJAに関心を持って、事業やイベント、諸活動に積極的に参加すること、そして、共に地域農業・地域社会のことを考え、豊かなくらしの実現に取り組むことが大切になっています。

さらに、支店協同活動の企画を支店運営委員会で協議することにより、組合員の意見がより一層反映でき、組合員の絆が深まることとなります。

支店協同活動の実践事例としては、JAまつり、食農教育、趣味サークル、地域美化活動など、さまざまなメニューがあります。

いっしょに
築いて行こー！



地域とJAの 新たなつながりを創造する

支店協同活動は、事業とは違い経営面への効果測定が難しいのですが、地域とJAの新たなつながりを創造することによって、「協同組合としてのJAらしさ」が発揮されると考えます。この先にJA経営への貢献があることを念頭に置き、組織全体で高いレベルの問題意識を共有する必要があります。

支店協同活動の例

静岡県のJAなんすん金岡支店での取り組みを紹介します。

金岡支店では、地元の特産品「大中寺芋」振興のイベント活動を行っています。商工会議所から「沼津ブランド」の認定を受けたこと契機に生産者らが「大中寺いもの会」を結成し、同支店では「1支店1協同活動」として「大中寺芋収穫祭」を実施してこれを支援することとしました。

収穫祭に向け、いもの会と支店職員に加えて女性部員、地元の親子なども参加し、収穫作業と掘りたての芋を使った加工品づくりが行われ、収穫祭当日は芋の品評会をはじめ来場者に対して試食会、即売会などが行われました。

同支店では「職員会」を主体として支援しました。各職員が料理係、チラシ係などの担当し、支店全体の取り組みとして実施しました。

収穫祭の開催後、いもの会への加入希望者が出てきており、また芋を使った焼酎造りの動きが見られるなど、イベントの波及効果が出ているようです。



えみ
笑味ちゃん(小学2年生)

いつも明るく元気な女の子。
好奇心おうせいで、思っていることは素直に口にします。
食べることが大好きです。
国産農産物の消費拡大と食料自給率向上を目指した
「みんなの良い食プロジェクト」のシンボルマークです。

JAグループ 福島
耕そう、大地と地域の未来。

みんなのよい食プロジェクト